Rice Lodge Ogata

提携米通信

2020年6月号・黒瀬農舎

少し遅くなりましたが田植え始まりました。

田植えスタート！　2020.5.26撮影
このアングル、お米の袋と同じです。

今年の春の天候は、すこぶる不順です。

桜の開花は４月中頃と、飛び切り早いでしたが、開花後は寒い日が続き、花はいつまでも散らず５月の連休まで桜が楽しめました。

また、種蒔き以降雨の日が多く、田植え準備が大幅に遅れました。

除草剤を使わない米作りの雑草対策は、生えた雑草を取る事よりも、雑草の発生をできるだけ減らすことに精力を割くことが一番大事です。

雑草発生を抑える極意は、先ず第一に田圃を限りなく平らにすること。次は、丁寧な代掻き。その次に、深過ぎず、浅過ぎず、緻密な水加減。

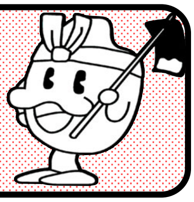
田圃を平らにするには、最近は、レザー光線やＧＰＳでトラクターを制御するレベラーを田圃を十分乾かせた状態で使いますが、今年の悪天候で、田圃が乾かず、作業が大幅に遅れました。

上の写真は、今年の田植え２日目。５月２６日のスナップです。

全部の田植えを終えれば、本格的な草との闘いの開幕です。均平、水管理で雑草の発生を出来るだけ抑えた上で、マガモ君たちや、パートの女性の皆さんの応援、そして、昨年、色々の中古機械や中古部品を使って手作りした乗用除草機の出動です。

この闘い、勝つ年もあれば、負けて草まみれの年もあります。また、五分五分の勝負の年もあります。苦しいながらも、愉しいシーズンのはじまり、始まりです。

提携米 黒瀬農舎
〒０１０－０４４５
秋田県南秋田郡大潟村西１丁目４の７
黒瀬　正・友基
TEL:0185-45-3088　FAX:45-2887
E-mail: akita@kurose.com　Web: 提携米 黒瀬農舎 検索



☆定期購入の場合も、変更や前倒しの出荷、休止はいつでも対応いたします。変更や休止は次のお米のお届けの5日ほど前までにご連絡下さい。

☆お米のご贈答利用も宜しくお願いします。

★電話は土日祝日も含めて朝８時～夜８時頃まで対応致します（自宅兼事務所）。但し、電話受付の専任スタッフはいないため作業中や外出などで留守番電話での対応となることがあります。ご了承お願いします。

また、メールもぜひご利用下さい。なおメールは原則すべて返信していますので、返信メールが届かない際は自動的に迷惑メールとなっている可能性もあるので迷惑メールの確認やメールの設定をご確認下さい。

37年前の秋田沖地震とコロナ避難所問題

表のページは、５月２６日の写真ですが、３７年前のこの日・昭和５８年５月２６日・正午数秒前に発生した秋田沖地震（後に日本海中部地震と命名）の日です。

ところで、コロナはやっと収束してきたようですが、いま一番心配されているのは、第二波対策と、災害と重なった場合の避難所問題のようです。

コロナの避難所の問題が心配されている折に、上述の秋田沖地震追悼の日を迎え、今号は秋田沖地震いついて少し触れておきたいと思います。

浜に逃れた４５名の学童が、津波に溲われ１３名が亡くなった男鹿半島の漁村・加茂青砂

秋田沖地震が発生した頃は、日本ではマグニチュード７を超える大きな地震が長らくなく、その後、阪神淡路大震災が発生するまでは、秋田沖地震が一番大きな地震だったようです。

震源地は、男鹿半島沖７０Ｋｍ、M7.7、死者は100名を超え、ほとんどが津波による死者。

発生時に私は、写真の田圃の農道におりました。

軽トラックを降り、水の取り入れ口のゲートを開けようとしたらグラッと大地もろとも動き始めました。

駐車ブレーキをかけていないトラックが、田圃に落ちそうになり、あわてて車に飛び乗り止めました。田圃の水が波打ち、畦に当たって水しぶきが５㍍以上飛びました。

田圃の小屋に入れてある大型トラクターが揺れで動き、小屋の壁を突き破りました。

家族が心配で、直ぐに自宅に向かいました。道中１５Ｋｍ余の道は、舗装が波打ったり、隆起や沈下している部分もありましたが、車の通行はかろうじて可能でした。

自宅に入ると、食器などの破損はあるものの、心配したほどの被害はありませんでした。

電気は数日、水道、ガスの復旧は２ヶ月ほどかかったように記憶していますが、都会のマンション生活とは異なり、少し不便なだけで、田舎では大きな障害にはならないことを体得しました。

この地震で、特に感じたことを列記しておきます。

１、田圃で地震発生に会い、凄い揺れを感じた。しかし、最終的に大きな被害が無かった理由は、当地の田圃の地盤は極端に軟弱なため、凄く揺れたが、竹や柳が強風に強いように、揺れは酷くとも、被害は少ない。

２、私たちの村の中央広場には、地震翌朝に土木資材やポンプ、建設機械を積んだ大型トラックが次々に到着し、広場は救援資材で一杯になりました。

３、車のナンバーは、東北、関東各地が多く、地震発生からほんの数時間後には、それぞれの現地から震源地に近い当地の八郎潟干拓地の救援に次々に出発したものと思われ、この迅速さには驚き、日本の指揮命令系統や国力の凄さを感じました。

４、救援の指揮は、政府官邸ではなく、建設省と農水省の官僚主導のように思われ、当時と今の官僚と官邸の関係や位置の落差が偲ばれます。

５、災害で困ることは、何といっても一番は命と健康です。
次に困ることは、家屋や資産の毀損や消失のように思いますが、これは大きな問題ではありません。
命と健康の次には、生活基盤が脅かされることだと思います。公務員や大会社の社員は、災害によって、住宅をなくしても、働く場と賃金は保証されています。でも、事業がだめになったり、勤め先の倒産や廃業によって収入源を絶たれれば、お手上げです。
この度のコロナ騒動で、飲食、旅館業などの方のご苦労が偲ばれます。

６、秋田沖地震の死者は、ほとんどが津波被害でした。
しかし、日本海側で津波被害が出た例は少なく、男鹿半島の漁村では「地震が来れば、裏山から離れ、海辺に避難せよ」という古老からの教えがあるという。
男鹿半島の裏山は土砂崩れが多く、津波の経験がない漁村ならではの教え・知恵だったのです。